

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530408

研究課題名（和文） 忠実な表現と会計的認識・測定と比較制度分析

研究課題名（英文） Comparative Institutional Analysis of Recognition and Measurement in Accounting with Special Reference to Faithful Representation

研究代表者 藤井 秀樹（FUJII HIDEKI）

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：80173392

研究分野：会計学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：国際会計，概念フレームワーク，忠実な表現，公正価値測定，比較制度分析，会計制度，コンバージェンス，非営利会計

## 1. 研究計画の概要

(1) 「忠実な表現」の概念構成・位置づけ・インプリケーションの解明（2008年度）

概念レベルの会計変化に関する事実の観察と論点整理を行う。FASB[2006]とその関連資料・文献の検討を主要な研究方法とする。

(2) 「忠実な表現」に主導された認識・測定ルールを展開方向の解明（2009年度）

ルール・レベルの会計変化に関する事実の観察と論点整理を行う。IASB[2005]とその関連資料・文献の検討を主要な研究方法とする。

(3) 会計変化の特徴と意味の比較制度分析にもとづく解明（2010～2011年度）

上記(1)(2)の研究を通じて得られた会計変化に関する知見の、比較制度分析にもとづく理論分析を行う。比較制度分析の発展的応用を図るための理論研究を主要な研究方法とする。この作業は、会計理論と会計研究方法のあり方に関する検討を含むものとなる。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 2008年度は、財務報告情報の質的特徴の1つとしてFASBの2006年予備の見解(FAS, No.1260-001)で提示された「忠実な表現」の概念構成と、基準設定に対する当該概念の理論的インプリケーションを、当該概念の形成(再定義)の歴史的経路をふまえて検討した。その結果、「忠実な表現」概念に主導された基準設定のもとでは、GAAPの変質(記述的性質の後退)が促進される傾向を持ち、そうした制度形成に正統性を付与するために、基準設定団体の後見であるパブリックセクター(SEC, IOSCO, EFRAG等)の主導性や影響力が相対的に強化されることになる

ことを明らかにした。

(2) 2009年度は、FASB/IASB[2006]とその改訂版として公表されたFASB/IASB[2008]の分析を通じて、従来の「信頼性」に代えて「忠実な表現」を基本的特性の1つとして指定する制度設計上の意味を検討した。その結果、FASB/IASBは基本的特性のかかる差替えによって、有用な会計情報の識別プロセスから信頼性(とりわけその要素である検証可能性)の牽制作用を排除するとともに、会計において描写すべき現実世界の現象の「忠実な表現」を規範的指針として制度化しようとしてきたことを明らかにした。

(3) 2010年度は、それまでの研究(とりわけ「忠実な表現」を基本的特性として採用した改訂概念フレームワークの論理分析を行った一連の研究)を通して明らかになった制度変化の特徴と意味を、制度派理論の一元流をなす理解社会学を援用することによって敷衍し、研究成果の体系化を試みた。その結果、市場参加者の目的合理性と制度設計者の価値合理性の緊張関係が制度を押し動かすダイナミズムを生み出してきたと解釈することによって、随所に矛盾を含んだ複雑な近年の会計制度変化の特質を論理整合的に説明できることを明らかにした。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

(1) 本研究の主たる研究対象であるFASB/IASBの改訂概念フレームワークプロジェクトが、フェーズA・Dに限定されているが、これまでおおむね順調に推移してきたこともあり、当初の研究計画を予定通り実

施することができた。その研究成果として、過去3年の研究期間中に雑誌論文等10件、学会発表7件を、得ることができた。

(2) 本研究課題に密接に関連するテーマのもとに、日本会計研究学会において、スタディ・グループ「会計制度の成立根拠とGAAPの現代的意義」(主査・藤井秀樹, 2009~2010年度)と、特別委員会「会計基準の国際統合と財務報告の基礎概念」(委員長・藤井秀樹, 2011~2012年度)の設置が承認され、各研究組織での研究活動を本研究と同時並行的に進めることができた。その相乗効果により、本研究計画をより充実した形で進めることができた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本研究課題に関連する文献として近年新たに公表された改訂概念フレームワーク(FASB/IASB[2010a])および「財務諸表の表示」に関するStaff Draft(FASB/IASB[2010b])の検討を研究計画に追加し、研究の完成を目指す。研究成果は、論文または学会発表を通じて逐次公表していく。具体的には、現在FASB/IASB[2010a]の分析・検討に基づく研究論文を執筆中であり、また本年度の日本会計研究学会全国大会でFASB/IASB[2010b]の分析・検討に基づく研究報告を行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計10件)

藤井秀樹「金融資本主義と時価会計」『会計理論学会年報』第24巻, 1-4頁, 2010年, 査読無し

藤井秀樹「会計基準の国際統合と資産負債アプローチ」『税経通信』第65巻第9号, 49-56頁, 2010年, 査読無し

藤井秀樹「会計基準のグローバル化と制度分析の視点」『企業会計』第61巻第1号, 42-50頁, 2009年, 査読無し

藤井秀樹「会計制度形成の現代的特徴と展開方向 改訂概念フレームワーク草案における『忠実な表現』に寄せて」『会計制度の成立根拠とGAAPの現代的意義』日本会計研究学会スタディ・グループ中間報告書, 87-109頁, 2009年, 査読無し

藤井秀樹「会計制度の成立根拠を考える 合意と制度の信頼性」『會計』第173巻第5号, 1-19頁, 2008年, 査読無し  
他5件

##### [学会発表](計7件)

藤井秀樹「会計理論の課題と研究方法」会計理論学会 2010年10月16~17日, 名城大学

藤井秀樹「会計制度の成立根拠とGAAPの現代的意義」スタディ・グループ最終報告, 日本会計研究学会, 2010年9月8日, 東洋大学

藤井秀樹「複式簿記と資金会計」日本簿記学会, 2010年8月28~29日, 京都産業大学

Hideki Fujii, Current Issues in Accounting Research and Methodology, International Accounting Workshop Held on 2004 Agreement of Cooperation between Université Paris-Dauphine and Kyoto University, 2009年11月27日, Université Paris-Dauphine (フランス)

藤井秀樹「会計制度の成立根拠とGAAPの現代的意義」スタディ・グループ中間報告, 日本会計研究学会, 2009年9月2日, 神戸国際会議場  
他2件

##### [その他]

藤井のホームページで、研究成果の一部を公開している。

URL:<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/huji/i/myweb/>

1. 日本会計研究学会スタディ・グループ報告書, 中間報告 2009年9月, 最終報告 2010年9月

パスワード: 中間報告 20090902

最終報告 20100908

2. 「実証会計学の方法論」経済学研究科ワーキング・ペーパー, No.J-81, 2010年8月